

A
さん

セッション全体を通して、女性の健康課題に関する各支援者の取組や今起きている課題を知ることができて良かったです。また、なるほどと思われたお話が多くすごく有益でしたので、今回は業務として参加させていただきましたが、機会があればこういったイベントでお話を聞くことの面白さを感じました。

B
さん

多種多様な業種の人々も女性の健康課題について注視しており、男性の自分からすると少し蚊帳の外な感じがしていたが、ちょっとした気づきや行動一つで女性のみならず社会全体生きやすくなったり仕事しやすくなるものなんだなと話を聞いて感じたため、一つずつ実践できることをやっていきたいと思う。

C
さん

女性特有の体調不良は隠さなきゃ行けないという日常で感じていた違和感が、近年はオープンする選択肢が生まれてきつつあることを知り、とても嬉しく思いました。とはいっても、自治体のような大きな組織では女性の身体の仕組みに関する教育を受けていない年配の男性中心の社会が続いており、まだまだ、自分の職場が変わる未来は見えません。ハラスメントと同じように、研修として、職員全員が知識を得る機会を何度も繰り返し与えることが必要だと感じました。

D
さん**【特に印象に残った点】**

「+α」より「基本」の改革の重要性。出産手当のような金銭的支援も企業の姿勢を示す上で有効ですが、それ以上に「育児中の社員が気兼ねなく働ける空気感」や、「ハンコのためだけに出勤する」といった旧来の制度を見直すなど、根底にある働き方の変革こそが本質的なサポートになるという指摘に、強く共感しました。派手な施策に飛びつく前に、足元の課題に目を向けることの重要性を再認識しました。

【男性の理解と参加の必要性】

「フェムテック」の取り組みについて、国井氏が「女性が発信しないとわからない男性が多い」と語っていたように、生理や更年期など女性特有の健康課題は、当事者でないと理解しにくい側面があります。サソドラの事例にあったように、生理周期をチームで共有し、不調を「自分ではどうしようもないこと」として周囲が理解しサポートする体制は、まさにDE&Iの考え方を体現していると感じました。また、父親の子育て参加を促す谷内氏のお話にあった「子どもと過ごす時間の長さが愛情を育む」という視点は、育児が女性だけのものではないことを改めて気づかせてくれました。

【価値観の共有と対話】

「男女ともに『わかっているよね?』という認識は通用しない」という言葉が心に残りました。性別による役割意識や価値観の違いは、無意識のうちに存在します。お互いの状況を理解し、価値観をすり合わせるための「ワンランク上の対話」を、職場や家庭で意識的に増やしていくことが、相互理解の第一歩だと感じました。

【感想】

今回の講義全体を通じて、女性の健康課題やジェンダーギャップの解消は、女性だけの問題ではなく、組織で働くすべての人に関わる経営課題であることを改めて認識しました。

制度という「ハード面」の整備はもちろん重要ですが、それ以上に、対話を通じて互いの価値観を理解し、無意識の偏見に気づき、支え合う文化を醸成していくという「ソフト面」の取り組みが、DE&I推進の鍵を握っています。

「いい意味で自分の価値観を壊していく」。この言葉を胸に、まずは自分自身のアンコンシャスバイアスに気づく努力をするとともに、職場で生かしていきたい思います。大変有益な学びの機会をありがとうございました。

E
さん

全体を通しての非常に個人的な感想になりますが、いろいろな立場の人が、女性の健康課題へ関心をもって取り組みを行っているのだということを改めて実感し、それ自体をとても嬉しく思いました。

世代的にSNS漬けなこともあり、男女の差に関する内容では、男女双方の否定的な意見を日々目にしてはほんのり落ち込んでいたのですが、皆さんのお話を聞く中で、「前を向いていても良いんだ」と勇気づけられたように感じています。

私たちみらい会議では、「女性の」「男性の」ではなく「自分たちの」話題にしていく必要があると考え、女性の生理を取り上げた取り組みを行っています。話題を共有するにあたって難しさはいくつかありますが、センシティブな話題であるという暗黙のルールや、男性が自分事として認識しづらいこと等の他に、女性が自然と「女性だけの話題」として捉えているために、閉鎖的な思考に陥る場合もあると考えています。今回、雇用や職場環境、育児など複数の視点でお話がありましたが、性別や年齢、立場を問わず、誰もが互いの健康や暮らしを思いやることが出来た時、一人一人が困難を抱え込まずに打ち明けたり、思いやりを受け取る心構えができるのだと感じました。

また、今回のテーマに限らず、よりよい社会へ変えていくための課題をクリアするには、まず「気づく」ことが重要なのだと改めて感じました。これまで自分はどれだけの問題を素通りしてきたのだろうとつい過去を振り返ってしまいます。無自覚の思い込みで機を逃す事が無いよう、できるだけオープンに話し合い、他者の意見や話題を取り入れ、自分の考え方をアップデートしていけるよう努力したいです。

そして人の意識を変えていくというお話の中で「草の根運動」という言葉を聞いて、大きな枠組みや制度のみでなく、些細であっても自分にできることと地道に向き合っていく必要があると感じました。私は「この人になら・ここでなら安心して話せる」と思ってもらえるような空気づくりから、意識して始めてみようと思います。

この度は貴重な機会をいただいて本当にありがとうございました。